FOOL's ART GALLERY

差分に加え録音、文章付き画像も収録

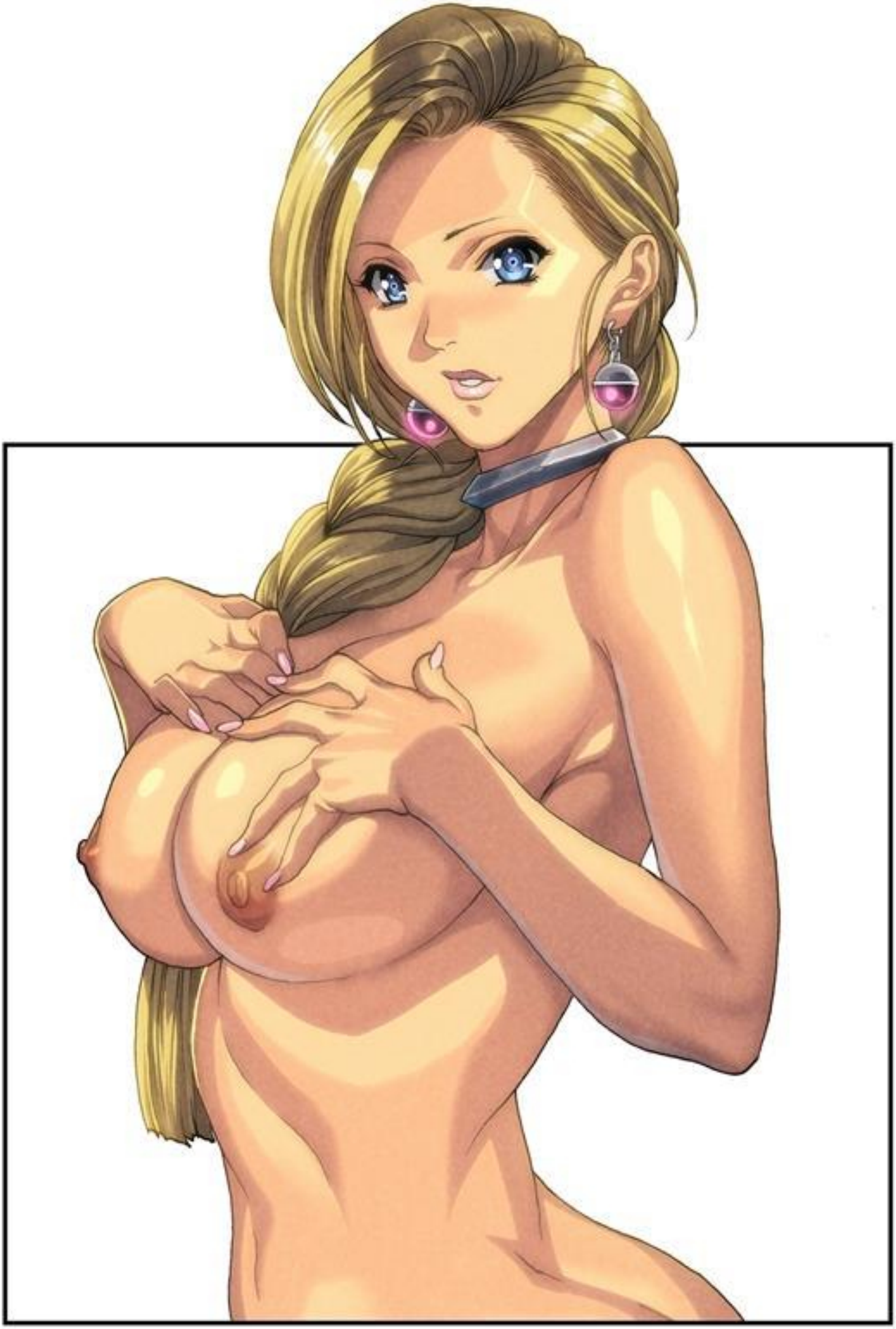
魔物に調教された花嫁に精液を流し込め！

拘束され手加減なしに責められ続け堕ちていく

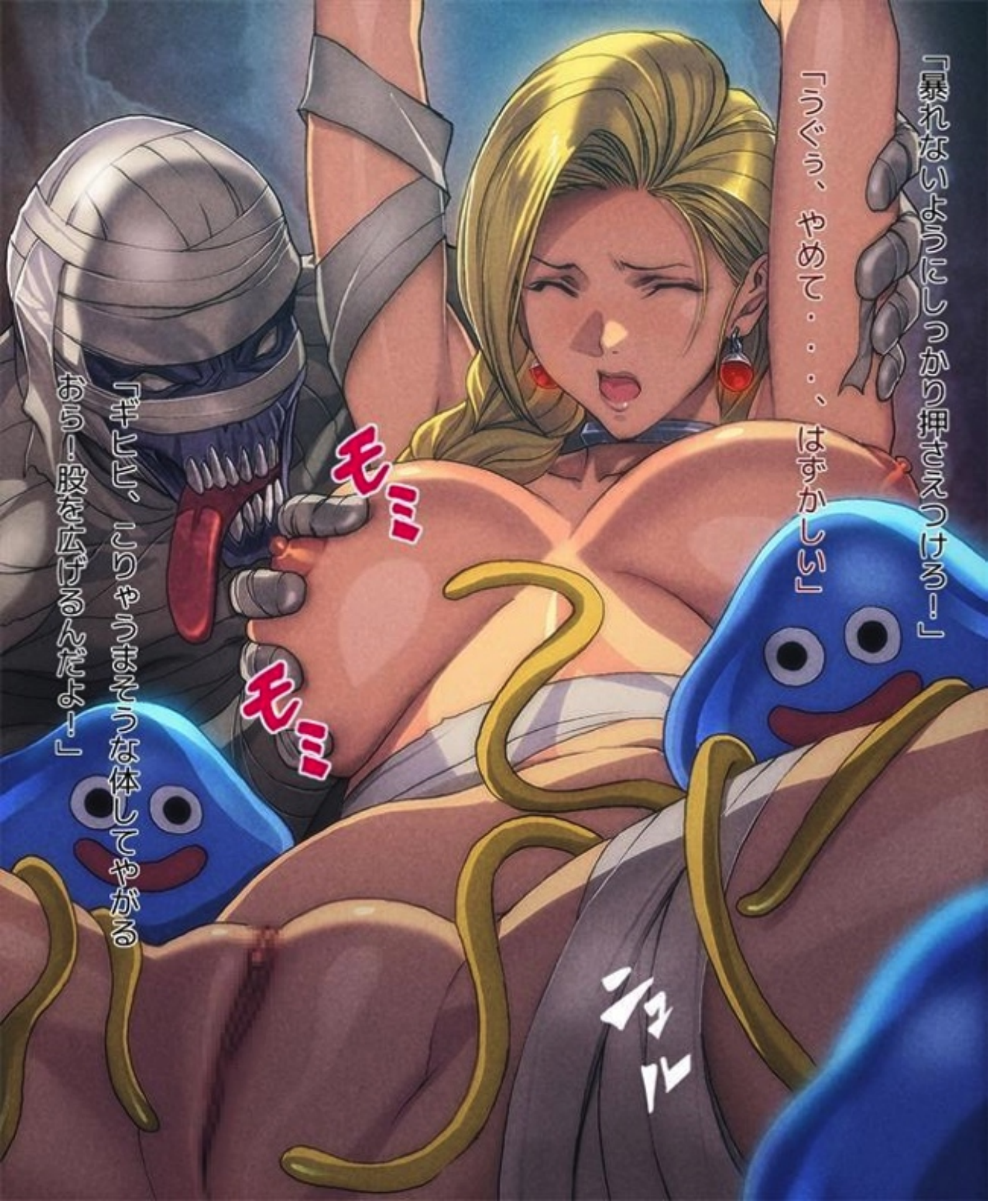
大勢のモンスターが容赦なく襲い掛かるレ○プ地獄
誰も助けに来ない暗闇で犯され続ける

天空の人妻

ADULT ONLY



「へへへ、今まで俺たち魔族を散々苦しめてきたヤツにお礼がやっとできるぜ」
「たっぷりかわいがってやるから覚悟するんだな！」
「いや！はなして！」
「飢えた連中の中にコイツを放り込んだらどうなることやら」


「暴れないようにしっかり押さえつけろ！」
「うぐぅ、やめて・・・、はずかしい」
「ギヒヒ、こりゃうまそうな体してやがる
おら！股を広げるんだよ！」
モミ
モミ
ヒュル

「やだ、そんなところダメッ！くうっ！」
「ヒヒヒ、どんなに口では嫌がってもこっちは正直だなもうこんなに濡れてやがるじゃねえか 相当な淫乱女だな」
「こりゃアジトに連れ帰って徹底的に調教してやるぜ」
「いや！もう許して！」
ビクン
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ヒィ
ヴィィン
クチュ
ヴィィン
ヴィィン

「捕まえてきた女噂どおり相当の上玉だな」
「うう、乱暴にしないで・・・・」
「痛い目にあいたくなけりゃ俺たちの言う事を聞くんだな」
クチュ
クチュ
「そら、俺たちのを口で御奉仕しな」
「ううう、」

「ククク、うまいじゃないか」
「清楚な顔をしながら相当なやり手だな」
「そら、イクぞ！」
「うぐぅ・・・・」
ドピュッ
ドピュ

「おら！まだ終わりじゃないぞ
今度はこっちの穴にぶちこんでやるぜ！」
「んあああぁ！！」
ひっ♥
ぷる
んぁ♥
あひ♥
ぶるん
ぶるん
ぱんっ
ぱんっ
ゲチョ
ゲチョ
パチョ
「ヒヒヒ、こりゃぁたまらん！肉ヒダがからんできやがる」
「やっ！そんなに激しくしたら壊れちゃう！」
「オラオラ！お前も腰を振るんだよ！」

「楽しませてくれる！
そろそろイクぞ」
「イヤ！中はだめぇっ！」
んはあああっ
ドクッッ
ピク
ピク
ドュッ
ドュルルルル
「グフフ、他の連中もガマンの限界のようだ
たっぷり相手してやるんだな」
「そ、そんな・・・・っ、もう無理・・・・」

「この女たまんねえぜ　おら！こっちもくわえるんだよ！」
「ひっ、うぐぅ！」
「俺たち魔族に楯突くからこうなるんだよ」
「終わったら次早く変わってく
「次がつかえてるんだからよう
ずりゅ
ずぶぶ
パチュ

「うううう・・・」
「もう気を失ってやがる　だらしねぇ」
「ククク、他愛ないな　所詮は人間のメスだ」
ぐったり
「このまま俺たちの肉奴隷として死ぬまでかわいがってやるぜ」
「せいぜい楽しませてくれ」
ピク
ピク
ピク

「いや！助けて！」
「グヘヘヘ、叫んだって誰も助けにこねえよ」
「テメエのダンナはこの先の道端でおねんねしてるぜ！」
「久しぶりの女だ　ぶち込んでやるぜ！」
「ひぎいいい！　痛い！」
「すげぇ締め付けてきやがる！いい具合だ」
ユサ
ユサ
ユサ
イヤッ
ぶるん
むにゅ
パチュ
グチュ
パンパン

「いやあああーっ」
「うおおお、このまま中に出すぞ」
「ダメェー」
ドクン
ドッルル
「ぐふふ、次は俺の番だ」
「くたばってるダンナの分まで俺たちが
たっぷりかわいがってやるから安心しな

「あん、あひっあああ！
アソコとオシリが中でこすれてるうっ！」
「ケケケ、この女自分から腰振ってやがるぜ」
「何日も掛けてセックス漬けにしてやったからな」
「コイツももう俺たちの性処理をする奴隷よ」
「こうなったらもう元にはもどれまい」
ユサ
ユサ
もっと
あひ
パチュ
ドチュ
グチュ
パンッ
ブルン
グチュ
クッ

「うお！すげえ腰使いだ　もうイクぞ」
「出して！私の中にいっぱい出してぇっ！
んあああああ！！私もイクぅ！」
おおおっ
ビッ
ドビッ
ひあ
あああんっ♥
ビュル
ブリュッ
「ギヒヒ、俺たちに楯突いてたコイツももう終わりだな」
「使い物にならなくなったらまた次をみつければいい
それまではこの女で・・・ククク」

「あん！ああっ！
そんなに激しくしたらおかしくなっちゃう！」
あん
あん
あん
「おらおら！もっと腰を振れ！」
「ああっ！奥まで当たってるぅ！」
「お前は人間の男にはもったいない
ワシの妻として毎晩満足させてやるわ！」
パッッ
ズチュ
グチュ
パッッ
ブルン
プルン

「いや、もう許して！お願い！」
「たっぷり中に流し込んでやるぞ！」
「ヤダ！赤ちゃんデキちゃうっ！やめてぇ！」
ダメェ
ビク
ビク
ああっ
「まだ終わりではないぞ　次は仰向けになって足を開け」
「ヒッ！もう無理よ・・・・・」
オオッ
ドク
ビュッ
ビュルル
ビク
「もうお前はワシのものだ言う事を聞かなければ・・・・・」
「誰か助けて・・・・・」